

自由と愛

ホープ・チャペル所沢

I コリント 8 : 1~13

「知識のあるあなたがたが偶像の宮で食事をしているのをだれかが見たら、それによって力を得て、その人の良心は弱いのに、偶像の神にささげた肉を食べるようなことにならないでしょうか。その弱い人は、あなたの知識によって、滅びることになるのです。キリストはその兄弟のためにも死んでくださったのです。あなたがたはこのように兄弟に対して罪を犯し、彼らの弱い良心を踏みにじるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。」

(第一コリント 8 : 10~12)

序文

キリストが罪と死から信じる者を贖われる前、人々は神様の御前に正しく立ち、神様との関係を保つために、様々ないけにえを捧げることと、個人的な関係、きよめ、食事規制に関する様々な律法に従うことを教えられてきました。しかし、キリストが十字架で死なれたことにより、律法への従順やいけにえによってではなく、キリストの犠牲に対する信仰によって義を得られることとなりました。けれども、罪と死から自由されることと、神様と人々を愛する役目から自由になることは違います。私たちが神様を愛し、神様が私たちを愛して下さったように互いに愛し合うこと責任を、神様は私たちに問われています。

1. すべてのことがわからなくても、神様を愛することを選ぶことができます。 (1~6)

ア) コリントの信徒たちの中には、唯一のまことの神に関する知識さえあれば救われると信じる人々がいました。

イ) 神様と隣人を愛するようにとの神様の命令に従うことが不可欠であるとパウロは論じました。

2. 与えられた自由をもって、神様と信者たちを愛するべきです。 (7~12)

ア) すべての信者が同じ知識を持っていても、重要なのは愛することです。

イ) 私たちが誰かを誘惑や罪に陥れるなら、私たち自身がキリストに対し罪を犯したことになるのです。

3. 愛と義に生きるようになるために、私たちは罪から自由にされました。 (13)

ア) 相手を駄目にするのではなく、信仰によって互いを建て上げる責任があります。

ウ) 自由、身勝手な喜び、便宜が動機であってははいけません。すべてにおいて愛が動機となるべきです。

私たちの祈りと学び、話し合いと応用のために

- 1) なぜ1~6節でパウロは、愛と知識を対比させながら、この議論を始めたのでしょうか。
- 2) 10~11節でパウロは何を言おうとしているのでしょうか。
- 3) I コリント 8 : 9~12 をローマ書 14 : 14~23 と比べてみましょう。私たちは、これをどのように適用出来ますか。

結論

パウロのここでの議論は、私たちの自由が信者の救いを失わせる事になるかも知れないということではなく、互いに愛し合わないことを選ぶことは、キリストに背くことを選ぶことになるということです。

060808hcte